

科目名	担当者名	配当	期	単位
研究論文指導	青野博之・白木豊・小松良正 趙元濟・對馬直紀・春田博 日笠完治・松本英俊 若林亜理砂・江森史麻子	3選	前期 後期	2

## ■講義内容■

法曹実務家のみならず、法科大学院教員、大学学部教員など、研究者となることを進路の1つに考え、大学院法学研究科博士課程への進学を希望する学生のため、大学院法学研究科修士課程における修士論文に相当する、研究論文（リサーチペーパー：特定課題研究）の作成を指導する。

受講者の希望専攻分野を踏まえ、各自に研究論文のテーマを設定し、その作成に必要な、判例研究、内外の関連文献の調査・研究、論文執筆における随時の個別指導、などをおこなう。

## ■シラバス■

### <科目のねらい>

法科大学院に要請されていることは、優秀な法曹の輩出だけではない。法曹教育を担う法科大学院制度を支える、次代の法科大学院教員、研究者を養成することも、その1つである。理論と実務の架橋を念頭においた法科大学院において学修研鑽を積み、新司法試験に合格したのち、法曹実務に進んで社会の中で起こる現実の法律事件の解決に働くことはもとより有意義であるが、後進の育成のために教壇に立ち学生の勉学を指導することも、同じく重要な社会貢献といえる。

本科目は、そのような趣旨から、研究者への進路をも念頭に置いている学生のため、研究者となるために必要な諸能力の育成涵養を図り、大学院法学研究科博士課程への進学のための研究論文作成を指導するものである。

なお、研究者への進路をも視野に入れている学生は、本科目だけでなく、「外国法」や「外書講読」も履修することが望ましい。

### <科目の内容>

学生の希望専攻分野、設定テーマなどにより、指導の方法・内容は個々に異なりうるが、おおむね以下のような指導をおこなう。

#### (1) 判例研究、判例評釈

設定テーマに関連する諸判例の研究、判例評釈（新判例につき、従来の判例や学説との関係での、当該判例の意義、位置づけ、射程範囲などを考察し、それを文章執筆する）をおこない、研究論文作成の基礎能力を養う。

#### (2) 文献研究

設定テーマに関して、既存の内外の文献を調査研究し、従来の学説・判例の問題点などを考察し、当該研究論文が新たな主張を提示するための、骨子を構築する。

#### (3) 論文執筆作成指導

以上を踏まえて、設定テーマにつき、従来の判例・学説を分析し、その問題点を指摘し、より良い解釈論・立法論などの観点から新たな提言・主張をする内容の、論文作成をする。教員は、学生の当該論文の執筆作成にあたり、内容構成、文章表現、論拠、出典などにつき、大学院法学研究科博士課程への進学を可能とする水準に達するものとなるべく、随時必要な指導をおこなう。